

一般社団法人 日本・ドミニカ共和国友好親善協会
World Baseball Classic 第一回コラム
“Introduction to Dominican Baseball”

文：住田ワタリ

（オリックス・バファローズ コンディショニング・ディレクター）

「♪フェリス・ナビダ、フェリス・ナビダ…」定番のソングが聞こえてくる。まだ、2ヶ月以上もクリスマスまでであるというのに、この国はお祭りモードでモールやスーパーマーケットには気の早いサンタクロースやトナカイがディスプレイされる。時を同じくして街にはご最頂の球団の旗を付けた車が走り出す。青・赤・黄・緑・橙・茶の6色がドミニカウインターリーグに所属する球団のチームカラーだ。人口1000万人強のドミニカ共和国（以下ドミニカ）は人口の1/3が都市部サントドミンゴ周辺に集中し、職を求めて地方から出てきた定住者も少なくない。老若男女がベースボールで熱くなる1年で4ヶ月しかないこの季節、街はベースボール（Béisbol）に染まるのだ。



首都サントドミンゴのキスケージャスタジアムを本拠とするティグレス・デル・リセイのチアリーダー
（鈴木 渉提供）

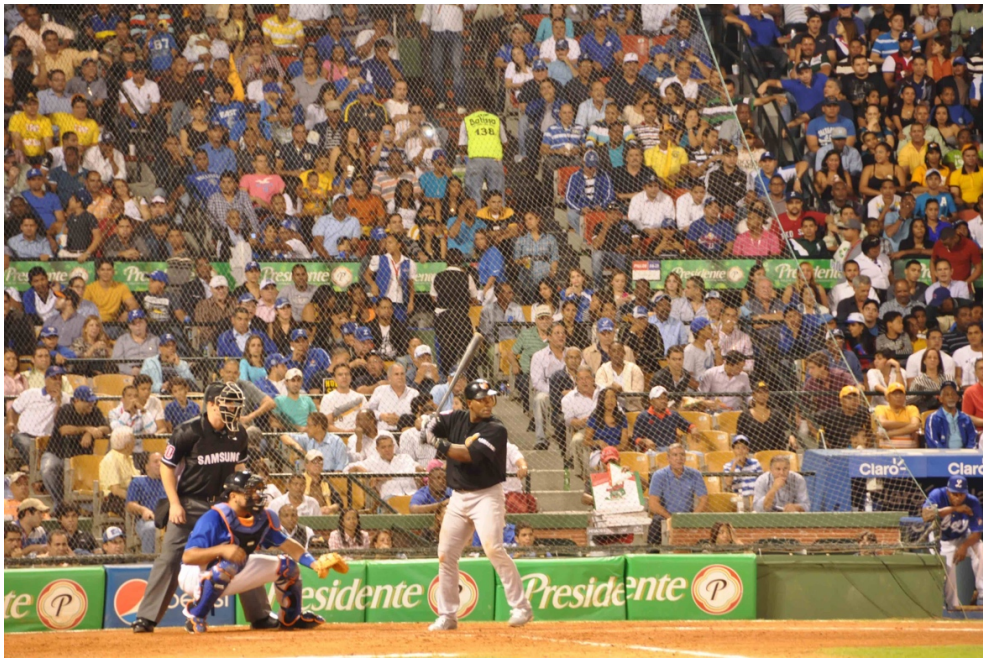
ある日のサントドミンゴ、橙色の野球帽を被った男性がラム酒をコーラで割ったキューバリブレでほろ酔い、コルマドと呼ばれる小さな商店に椅子を並べ座っている。テレビに映し出されたウインターリーグの画面に一喜一憂し店主がいつの間にか解説者となり、「あーでもない、こーでもない」と野球談議に華が咲く。そのやり取りを聞いていた婦人が、「今年はリセイ（サントドミンゴのチーム）が勝つに決まってる！」と横やり。

「何がフェリス（幸せ）だ！」とコルマドのスピーカーから流れるメレンゲ歌手が歌う「クリスマスソング」にケチをつける男性。トロスはこの日も敗戦濃厚でプレーオフ進出が厳しくなった。トロスの本拠地、ラ・ロマナ出身の建設現場で働くというこの男性、「トロスが勝つとみんなフェリスだ」と夜空に叫びながらコルマドを後にした。



コルマド（コンビニとバー、飲食店機能がある商店）で野球観戦に興じる市民（住田ワタリ氏提供）

1880 年ごろにドミニカにやってきたベースボールは瞬く間にサトウキビ産業を中心とする労働者階級に広がったと言われている。ウィンターリーグは 1907 年創設のドミニカ最古のリセイ・タイガースや 20 年前に創設されたヒガンテスなど現在 6 球団で行われている。レギュラーシーズンは 10 月中旬に開幕しクリスマス前まで 50 試合が行われ、上位 4 チームがプレーオフに進む。シーズン終盤に入るとスポーツニュースや新聞紙面はドミニカ人メジャーリーガーの話題が踊る。昨年の 12 月下旬、プレーオフ進出枠をかけた大一番にシアトルマリナーズで活躍するロビンソン・カノ選手がエストレージャスの一員として出場し、国民を驚かせた。カノ選手が母国のウィンターリーグのレギュラーシーズンに出場するのは 2008 年－09 年シーズン以来である。近年所属球団からウィンターリーグ出場に制限が付き参加を控える選手が多い中、今回のカノ選手のように母国の自分の育った球団への恩返しで出場するケースもあるのだ。



試合中の一風景。球場は超満員！（鈴木 渉提供）

少し前の話になるが、ソフトバンクでもプレーしたトニー・バティスタ選手が行った行為が印象深い。試合の帰りに立ち寄ったレストラン。深夜遅くにもかかわらず、少年たちは選手が来るのを待っていた。おなかを空かせ、何かをねだる為にバスから降りる選手に駆け寄る子供たち。バティスタ選手は子供たちを席に着かせ、皿いっぱいのチキンを注文した。目の前のチキンを手を取り合おうとする子供たちに、「順番にナイフとフォークで分けなさい。年少から取り分けてやりなさい！」とやさしく語りかけた。「ものを買って与える、配るは簡単なんだ。与えられた行為に対する礼儀と感謝も教えないと。」

バティスタ選手のようにメジャーリーグで成功を収めた選手の多くが母国に還元することを忘れない。教会を建てたり、球場を作ったり、少年野球リーグを運営したり、病院や学校に寄付したり……。ベースボールがくれた贈り物。ドミニカを訪れベースボールを楽しむ少年たちの笑顔を見るとふと思う。

ドミニカにはメジャーリーグ 30 球団すべてがアカデミーを置いている。日本人スタッフを採用している球団も出てきた。最近は少なくなったが日本人選手もウィンターリーグに挑戦した。日本でプレーしたドミニカ人選手は数えきれない。野球好きなら一度は訪れたい「ベースボール王国」、¡Vamos a la República Dominicana!（さあ、みんなでドミニカ共和国に行ってみよう！）



最肩チーム（アギラス・シバレーニャス：中部サンティアゴ市が本拠地）のカラーでペイントされた車
（住田ワタリ氏提供）



試合当日の球場の様子（住田ワタリ氏提供）

著者紹介：住田ワタリ

1977 年生まれ。帝京大時代はラグーマンとして活躍後、米国の大学でスポーツ医学を学ぶ。MLB マイナーリーグ、ドミニカ共和国（同国初の日本人コンディショニングコーチとしてアギラス・シバレーニャスで勤務）、メキシコ、中日ドラゴンズでコンディショニングコーチを務める。ラグビーU-20 日本代表総務を経て、2015 年 11 月よりオリックス・バファローズでコンディショニング・ディレクターとして活躍中。